北翔大学北方圏学術情報センター　年表（平成31年度(令和元年度)）

平成31年４月	センター長に小室晴陽（教育文化学部教授）就任 副センター長に冨田玲子（教育文化学部教授）就任 運営委員会 　運営委員長　小室晴陽（センター長兼務） 　副 委 員 長　冨田玲子（副センター長兼務） 　運 営 委 員　黒澤直子（生涯スポーツ学部教授），林　亨（教育文化学部教授），村松幹男（教育文化学部教授），千里政文（教育文化学部教授），飯田昭人（教育文化学部准教授），菊地達夫（短期大学部教授），山崎正明（教育文化学部教授），佐藤仁（北方圏学術情報センター事務担当）
令和元年８月～ 令和２年３月	平成31年度（令和元年度）北翔大学北方圏学術情報センター連続市民講座 【講座１　美術と子どもの時間展　子どもたちの「美術による学び」を伝える展示会】 日時：８月３日（土）～８月９日（金）　10：00～18：30 会場：ギャラリーＡ 概要：幼児・小学生・中学生・高校生の美術を通した学びを開設したパネル展示。絵を描いたりものをつくったりすることが，教育の中でどのような役割を果たすかを考えるための展覧会。 【講座２　高校生の美術展　「札幌平岸高校美術部展」】 日時：８月18日（日）～９月１日（日）　10：00～18：30 会場：ギャラリーＡ 概要：高校生が制作した美術作品を展示。絵画や立体造形など，今の高校生の豊かな感性が感じ取れる内容。８月25日（日）10：00～11：30，対話による鑑賞ワークショップを開催。ファショリテーターは，本研究員の山崎正明。 【講座３　北海道思春期支援ネットワーク秋季セミナー「子どもの心に向けた支援」】 日時：９月21日（土）　13：00～16：30 会場：会議室Ａ・Ｂ 概要：日本の子どもたちの自尊心が低いといわれていることに，教育が関わることの必要性が問われている。しかし，私たちは自尊感情についてどれほどのことを知っているだろうか？今，改めて子どもにかかわる大人が知っておくべき基礎から現在の課題を学んだ。 【講座４　世界の学校，日本の教室　～新しい時代の教育について考える～】 日時：10月12日（土）　10：00～11：30 会場：多目的ホール 概要：OECD生徒の学習到達度調査（PISA2018）の結果の公表前に海外の教育事情，国際学力調査が示す日本の教育のもつ強み・底力について，ウプサラ大学（スウェーデン）教育学部の客員研究員でもある信州大学准教授の林　寛平先生と共に振り返った。また，現在の学び方の最新の研究事情や新しい時代の教育について海外の教育と比較しながら考えた。 【講座５　札幌市時計台模型へのプロジェクションマッピングと時計台の歴史パネル展】 日時：11月20日（水）～12月１日（日）　10：00～17：00 会場：ギャラリーＡ ●時計台の歴史レクチャー 日時：11月23日（土）　13：30～15：00 会場：ギャラリーＡ 概要：札幌農学校（現：北海道大学）の教室兼屋内軍事訓練場（演武場）として1878年に建設され，札幌の発展を見守り続ける歴史的建造物「札幌市時計台」について，その歴史を解説する大判パネル16枚（札幌市市民文化局制作）を展示し，また時計台外装の変遷や北翔大学芸術学科学生が製作した創作映像を時計台模型に投影するプロジェクションマッピングを展示した。また，11月23日（土）13：30～15：00には，市民ボランティアガイドの吉村邦夫氏による時計台の歴史を語る講演会を実施した。

令和元年８月～ 令和２年３月	【講座６　自分たちの足元を見つめて，まち自慢を発信する】 日時：12月８日（日）　13：00～15：00 会場：会議室Ａ 概要：今世紀半ばの日本は少子高齢化のため存続できない自治体がでてくることも予想され，北海道も例外ではない。このような背景から将来も自分たちの郷土に誇りを持てるように，札幌と江別の「札幌軟石」と「赤煉瓦」のまち自慢をした。その後に文化財を守る活動に触れ，東海地域や西日本における保存・活用の動きと比較することができた。一方で地域の宝物である歴史的文化財が焼失するという不幸な事件が続いた。沖縄の首里城とパリのノートルダム聖堂の事例にも触れた。 【講座７　地域住民による支え合いの拠点（居場所）づくりの支援に関する研究】 日時：１月11日（土）～１月16日（木）　10：00～18：00 会場：ギャラリーＡ 概要：本研究グループでは，地域住民が担う支え合いの拠点，すなわち居場所づくり支援を目的とした研究を行っている。地域全体に拠点づくりと地域共生社会の創出を促していく取り組みを継続的に行う一環として実施している「子どもの食堂：地域食堂」の実践は２か所目の開催が始まり２年目を迎えた。さらに広がってきている地域住民や学生の関わりを含めた実践を中心として報告した。 【講座８　北海道思春期支援ネットワーク冬季セミナー「子どもの心に向けた支援」】 日時：１月25日（土）　13：00～16：30 会場：会議室Ａ 概要：本セミナーも30回目となる中で，なかなか切り口が探せず取り組めないでいた「いじめについての新たな対応」と，思春期支援を「親への関わり」から実践されている若手の講師をお迎えし報告した。
平成31年５月～ 令和２年３月	北方圏学術情報センター成果発表および関連行事 企画１：第13回さっぽろ高校生演劇合同ワークショップ公演「サンチョパンサのバカ2019」 （作：イナダ＜劇団イナダ組＞，演出：中島憲，イナダ） 日時：６月15日（土）～16日（日） ワークショップは４月６日（土）から土日を中心に16回。 場所：多目的ホール，ギャラリーB，ミーティングルーム，会議室Ａ～D 企画２：北方圏学術情報センター研究授業（舞台芸術）成果発表 ５分間ストーリー「光る水晶」修正発表・公開 日時：７月８日（月） 場所：多目的ホール 企画３：研究成果報告会（生活環境） 口頭発表・パネル発表により成果報告,4階ユニバーサルデザインモデルルーム見学会を実施。 日時：７月12日（金） 場所：４階 企画４：「大田札幌北海道美術交流展」（美術） 日時：９月５日（木）～７日（土） 場所：ギャラリーA，B 企画５：「北海道・黒龍江省国際交流美術展2019」（美術） 日時：９月22日（日）～27日（金） 場所：ギャラリーA，B 企画６：第６回いっしょにね！文化祭（舞台芸術）（生活環境） 舞台設営・企画・演出など（舞台芸術） 障がいがあっても「着やすい服」をテーマに，デザイン性，機能性を鑑みたリメイク作品を発表（生活環境） 日時：10月５日（土） 場所：多目的ホール，ギャラリーＡ

平成31年５月～ 令和２年３月	企画７：舞台芸術研究グループ附属劇団　劇団B-Stage Vol. 9公演 「楽屋～流れ去るものはやがてなつかしき～」 日時：９月～10月。公演日時：10月19日（土）～20日（日） 場所：ワークショップ・稽古等は会議室Ｄ　発表はラグリグラ劇場 企画８：TEDxSapporo 2019「CROSS OVER」 日時：10月27日（日） 場所：多目的ホール，ギャラリーＡ，会議室Ａ～Ｄ 企画９：研究成果報告会（生活環境） 口頭発表・パネル発表により成果報告，４階ユニバーサルデザインモデルルーム見学会を実施。 日時：11月９日（金） 場所：４階 企画10：北方圏学術情報センター研究授業（舞台芸術）成果発表 ５分間ストーリー「バス停の風景」修正発表・公開授業 日時：12月９日（月） 場所：多目的ホール

平成31年度（2019年度）北方圏学術情報センター　グループ別研究員一覧

運営委員　◎小室晴陽・○冨田玲子・飯田昭人・菊地達夫・黒澤直子・千里政文・林亨・村松幹男・山崎正明・佐藤仁　　※太字は新規参加者

No.	区分		研究グループ略称	研究員所属				計	
				大学	短期大学部	学外研究員	研究協力員		
1	継続	プロジェクトA	多様な人々が共創して地域づくりを行うための異分野連携	飯田　昭人　冨田　玲子 小室　晴陽　林　亨 大信田静子　村松　幹男 今井　敏勝　水野信太郎 石塚　誠之　沖田　孝一 山崎　正明　丸岡　里香	菊地　達夫 田口　智子 平井　伸之			15	402
2	継続	プロジェクトB	舞台芸術	◎村松　幹男 森井　綾	田　光子 平井　伸之	大林のり子 金田一仁志 野田頭　希 森　一生		8	401 手前
3	継続		美術	◎林　亨 山崎　正明 小室　晴陽		末次　弘明　手塚　昌広 大井　敏恭　舘内　徹 塚崎　美歩 岩崎　愛彦 佐藤　一明		10	401 中
4	継続		健康	◎飯田　昭人　杉岡　品子 沖田　孝一　畑江　郁子 丸岡　里香　澤　聡一 佐々木浩子　**髙田　真吾** 佐藤　朱美		森田　憲輝 伊織　光恵	野口　直美 斉藤　美香 川崎　直樹	14	601
5	継続		生活環境	◎千里　政文 冨田　玲子 大信田静子 佐藤　克之 浅井　貴也		齊藤　徹　後藤　英樹 高岡　朋子　山田もと子 石切山祥子　牧野　准子 佐藤　剛　小河　佳子 村中　敬維　山瀬　甲人 田　恩蘋	笹浪　雄太 松浦　秀則 神田　英範 永野　晴基	20	401奥 + 403 (ユニバーサルデザイン)
6	継続		福祉	◎黒澤　直子　梶　晴美 佐々木浩子　本間　美幸 吉田　修大　八巻　貴穂 尾形　良子　佐藤　郁子 岩本　希				9	601
小計				40	5	24	7	76	
1	生活福祉研究部			佐々木浩子　入江　智也 梶　晴美　風間　雅江 佐藤　至英　**前田　織枝** 林　亨 大宮司　信	菊地　達夫 松田　久美	木下　泰男　管藤　美穂 加藤　満 岡野　五郎 齊藤　徹 澤野　尚子		16	602
2	生涯学習研究部			小室　晴陽　西出　勉 鈴木しおり　小杉　直美 竹田　唯史　石塚　誠之 山谷敬三郎　横山　光 林　亨　**工藤ゆかり** 佐々木浩子　**三浦　公裕** 水野信太郎　**二宮　孝行** 山本　敬三　**杉浦　勉** 澤田　悦子　**前田　織枝** 伏見千悦子 松澤　衛	菊地　達夫 田口　智子 松田　久美 **中島　啓子** **湯澤　直樹**	佐々木茂喜　菅原　克弘 藤原　等　島津　彰 萬崎由美子　佐藤　満雄 村井　俊博　亀山　比佐 白川　和希　能勢　保幸 遠藤知恵子　辻　智子 那賀島彰一　矢崎　秀人 佐藤　貴虎　谷川　松芳 藤川　和信　西村　弘行 神田　英治　関本　勝幸 **那須　杏奈　増子　智也**		47	602
小計				28	7	28	0	63	
合計				68	12	52	7	139	

北翔大学北方圏学術情報センター年報編集要項

1．本年報の名称は，『北翔大学北方圏学術情報センター年報』とする。
2．本年報の内容は，北翔大学北方圏学術情報センター規程の研究目的に適う研究論文・研究報告・作品発表をもって構成する。研究論文については，外部査読者による査読を行う。なお，査読に関して必要な事項は，別に定める。
3．本年報に発表する研究論文等の原稿や作品は，未発表のものに限る。ただし，既発表の内容を発展させたものは，その限りではない。
4．本年報に研究論文等を投稿できるのは，北翔大学北方圏学術情報センター研究員及び本学大学院生を原則とする。ただし，共著者にその他の者を含むことは差し支えない。
5．同一号に掲載できる同一執筆者の研究論文等は原則として１編とする。ただし，二人以上の共著の場合及び作品発表はこの限りではない。
6．本年報は，原則として年１回の発行とする。
7．本年報への投稿及び発表希望者は，応募予定報告用紙に必要事項を記入し，定められた日時までに編集委員会に提出する。
8．研究論文・研究報告・作品発表の掲載の適否については編集委員会で検討し，北方圏学術情報センター運営委員会で決定する。
9．編集委員会は，原稿中の字句について校正を行い，また研究論文等の体裁について再検討を求めることができる。校正は，初校及び再校を著者校正とする。
10．本年報に掲載された研究論文・研究報告・作品の著作権は執筆者本人に帰属する。
11．本要項の改正は，北方圏学術情報センター運営委員会の議を経てセンター長が行う。

【平成23年11月15日改正】

北翔大学北方圏学術情報センター年報執筆要項

1．投稿区分

研究論文	本情報センターが対象とする研究分野において，客観的な事実・データ・資料に基づき論理的で説得的な分析を行って新しい知見を提示しているもの，独創性のある萌芽的研究で発展性が期待できるものなどとする。なお，原則として他の学会誌あるいは出版物に未発表のものとする。口頭発表・事例報告済みのものであっても，客観的な論考を加え論文としての要件を満たす場合は，論文として取り扱う。
研究報告	本情報センターが対象とする研究分野において，資料的価値があると判断される調査結果や実践記録を報告するもの，講演会・研究発表会等で口頭発表した内容をまとめたもの，他の学会誌あるいは出版物に既に掲載済みの内容を書き改めたものなどとする。 なお，既発表のものをまとめた場合には，そのことを明示する。
作品発表	本情報センターが対象とする研究分野において，芸術的及び資料的価値があると判断される作品とする。また，本情報センターの研究の一環として発表することを明確にするために，Ａ４版１頁程度の解説を添える。

2．原稿の書式

1）本文の書式

⑴　１頁の文字数は，１行25文字×47行（1175字）とし，Ａ４判の用紙（縦置き横書き）に印刷する（印刷仕上がり時の１頁は２段組となるため，その半ページ分（１段分）に相当する）。

⑵　文字間隔は０とし，左側に寄せて印刷する。右側の空白部分は指示・注意等の記入欄に使用する。

⑶　原稿の枚数は，図・表・写真のスペースを含めて，30枚（印刷仕上がり時で15頁）以内とする。

⑷　作品発表の場合は，カラーの場合印刷仕上がり時で４頁（白黒は，論文・報告と同じく15頁）以内とし，必ずＡ４版１頁程度の解説を添える。

2）図・表・写真の取り扱い

⑴　それぞれに通し番号と表題を付ける（図・写真の場合は下部，表の場合は上部）。

⑵　挿入スペースは印刷仕上がりの行数で換算し（１段で納めきれない場合は1.5段文は２段使用も可能），希望する大きさを指示すること。原則的に写真１枚（横置き）は１段12行を取る。

⑶　挿入箇所は原稿の右側欄外に指示する。

3．原稿全体の体裁

⑴　表題

⑵　氏名および所属先名（原則として所属機関名および学部，学科名を記す）

⑶　抄録

⑷　キーワード（５語以内）

⑸　本文

⑹　英文抄録（title，abstract，key words）

＊本文以外の項目は，印刷仕上がり時には１段組となるが，提出時の原稿は本文の書式と同様とする。
また，この部分の仕上がりの体裁は編集委員会に一任とする。

4．抄録

1）研究論文には，抄録（和文・英文）を掲載する。

2）研究報告には，抄録（和文）を掲載する。英文の抄録掲載は任意とする。

3）作品発表には，抄録掲載は任意とする。

5．章・節等の見出し

1）章に当たるもの　Ⅰ．　Ⅱ．　Ⅲ
2）節に当たるもの　1．　2．　3．
3）項に当たるもの　1）　2）　3）
＊①②③は見出しには使用しない。

6．注及び引用文献の記載方法

1）「注」の場合
＊注1）　注2）　注3）
＊引用順に番号をつけて記載
＊本文中に肩番号 [注1)] [注2)] [注3)] をつける
2）「引用文献」の場合
＊1）　2）　3）
＊引用順に番号をつけて記載
＊本文中の引用箇所に肩番号 [1)] [2)] [3)] をつける
＊文献は，引用文献のみで参考文献は記載の必要はない。他の文献等を紹介する場合は，注に入れ，著者等を記載する。

7．文献の表記

1）雑誌の場合　著者名：表題，雑誌名，巻（号），論文所在ページ（発行西暦年）
2）単行本の場合　著者名：書名，版数，論文所在ページ，発行所，発行地（発行西暦年）
＊著者名が3名以上の場合は，主著者以外は“他”とする。

8．提出原稿の形態

原則としてワープロで作成したものとする。提出の際は，印刷した原稿と併せてその電子ファイルを収録した記憶媒体（CD等）を添付する。

9．掲載論文等の公開

本誌に掲載された研究論文等は国際情報学研究所の「電子図書館サービスNACSIS-ELSJのホームページ上で公開する。

10．付記（アクナリッジメントなど）

本情報センターの研究費を使用した成果報告の場合は，その旨を付記として最後の章の後に明記する。

11．本要項の改正は，北方圏学術情報センター運営委員会の議を経てセンター長が行う。

【平成23年11月15日改正】